

若狭武田家：若狭国（わかさのくに）の守護

概要

若狭武田家は、15世紀中頃から16世紀後半にかけて若狭国を統治しました。若狭武田家は、第6代足利将軍であった足利義教（1394年～1441年）によって守護（地方の知事）に任命され、16世紀初頭に小浜に後瀬山城を築くまでは京都から若狭国を治めました。また武芸や戦略の研究だけでなく、和歌や連歌などの芸術を保護したことで知られていました。

詳細情報

武田家の由来と分家

武田家の本家は、日本の第56代天皇である清和天皇（850年～881年）と、平安時代（794年～1185年）の最も有名な武士の何人かを生み出した源氏の清和源氏系の子孫であると言われています。一家は最初、甲斐国（現在の山梨県）の守護として仕えました。1221年、武田信光（1162年～1248年）が安芸国（現在の広島県西部）の守護に任命され、安芸武田家という分家が誕生しました。

1440年、将軍・足利義教の命により、安芸武田家の武田信栄（1413年～1440年）は、当時若狭国の守護として務めていた一色家を討ちました。その功績により、信栄は若狭守護職を授かり、これが若狭武田家という分家の起源となりました。

若狭国の統治

若狭武田家は他の多くの守護と同様、最初は若狭国に住んでいませんでした。その肩書きにもかかわらず、守護は主にさまざまな行事に参加でき宮廷での義務を果たすことができる京都に居住し、地方の統治は代理人（守護代）に任せていました。しかし、1467年から1477年にかけて応仁の乱が都を荒廃させた後、若狭武田家は若狭に移住する準備を始めました。

1522年、後瀬山に後瀬山城が完成するのに伴い、6代目当主であった武田元光（1494年～1551年）は山麓に邸宅を構えました。彼の家臣は、近隣地域からの攻撃に備えて、若狭国内の戦略的な位置に小さな城を建設しました。

芸術と文化の保護

若狭武田家は長年京都に拠点を置いていたため、都の文化人とよく交流がありました。若狭国に移った後も、若狭武田家は著名な歌人、絵師、学者、禅僧を邸宅に招いて、彼らが統治する間この地域に芸術や仏教信仰を広めました。

若狭武田家の衰退

16世紀後半になると若狭武田家の影響力は弱まり、足利幕府と強力な武将であった織田信長（1534年～1582年）との勢力争いの際に、隣国の越前国（現在の福井県東部）の朝倉家にとって代われました。その結果、九代目当主であった武田元明（1552年～1582年）は朝倉家に拘留されました。信長が勝利した後、彼は最終的に若狭に戻されましたが、1573年に信長の武将の一人である丹羽長秀（1535年～1585年）にとって代われ、これにより若狭武田家の長期にわたる若狭国の統治は終焉を迎えました。

展示品

若狭武田家の家系図の隣には、1574年に描かれた武田元光の肖像画の複製があります。その肖像画には、彼が馬に乗って騎射のための衣装を着ている様子が描かれています。若狭武田家は、犬追物と呼ばれる一種の武術訓練を継承したことで知られており、これには鈍い矢で場内の中を走る犬を射ることなどが含まれていました。寛永年間（1624年～1645年）にまで遡ると考えられている武田式の犬追物の入門書の一巻は、詳細な注記とヒントが記されたイラスト付きのページが開かれています。1528年に明通寺に送られた武田元光の花押(署名)の入った文書は、寺院の特定の税を免除し、外部の者が境内の木材を伐採することや宿泊のために寺院の建物を徴用することを禁止しています。元光の和歌（日本独自の形式の詩）も掛け軸として展示されており、若狭武田家の文芸の腕前を示しています。